

海の花火 (1951)

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 日本

色彩 B&W

時間 110分

初公開日 1951/10/25

【解説】

木下恵介が自ら書いたオリジナル脚本を監督。呼子港を舞台に、漁業組合の立て直しに奔走する組合長と、乗組員たちの姿を描く。

北九州にある呼子港の漁業組合。組合長の神谷は赤字の原因が二人の船長にあると、唐澤と石黒をクビにする。たまたま組合を訪れた魚住に後任船長を一任し、矢吹と渡という新しい船長を世話してもらった。さっそく二人を乗せた漁船が出航し大漁となるが、市価の下落により組合の赤字は解消されない。クビになった唐澤と石黒による妨害も行われ、神谷は苦境に立たされる。さらに神谷の船が減船政策にひっかかり、上京し事なきを得たものの、神谷は過労と心労のため倒れてしまう。

【クレジット】

監督 木下恵介

製作 小倉武志

脚本 木下恵介

撮影 楠田浩之

音楽 木下忠司

出演 木暮実千代

山田五十鈴

津島恵子

桂木洋子

小林トシ子

三国連太郎

三木隆

笠智衆